

新常滑市民病院のあり方について 検討結果報告書（概要）

本検討委員会において、新病院建設の必要性、新病院の基本的な機能、役割等のあり方について検討した結果（概要）を次のとおり報告する。

1 新病院建設の必要性

常滑市民病院は、地域における中核的医療及び急性期医療を担っており、その役割から引き続き存続する必要がある。あわせて中部国際空港直近病院としての役割を担うとともに、施設の老朽化、医師の確保、経営改善といった課題に対応するために、また、市民アンケート結果^{※1}を重視し、新病院を建設すべきである。

※1：市民アンケートでは、「新病院を建設すべきである」との回答が60.7%で最も多い。

2 新病院の位置

新病院の位置としては、用地が既に確保されていることや自然環境に恵まれていること、診療圏の拡大が期待されることから、また、市民アンケートの結果^{※2}を重視し、「常滑地区ニュータウン」とする。

※2：市民アンケートでは、「常滑地区ニュータウン」との回答が41.7%で最も多い。

3 新病院の基本的な考え方

新病院の基本理念及び基本方針については、現病院の役割、市民アンケートの結果^{※3}を踏まえ、次の項目を基本に今後策定すべきである。

<基本理念>

- 市民から信頼される病院
- 地域医療の中核を担う病院
- 質の高い、安全な医療の提供

<基本方針>

- 患者の権利を尊重し、信頼関係に基づく医療の提供
- 地域に必要な急性期医療、救急医療、高度医療、高齢者医療の提供
- 地域の医療機関や保健・福祉機関との連携による地域医療の向上と充実
- 中部国際空港の直近病院としての医療体制の整備
- 医学・医療技術の研さんによる医療水準の向上
- 健全な病院経営

※3：市民アンケート（複数回答）では、新病院において充実して欲しい医療サービスとして、「24時間対応の救急医療体制」（73.9%）、「小児医療や小児救急」（43.6%）、「高度医療や特殊医療を行う専門医療」（43.2%）、「職員の質の向上」（42.7%）が多い。

4 新病院の機能と役割

上記3の基本理念及び基本方針を踏まえ、新病院は次の機能及び役割を備えた病院とすることを基本とする。

<病院機能>

- 急性期医療及び高度医療の充実
- 救急医療の充実
- 高齢者医療の実践
- 医療・保健・福祉の連携
- 中部国際空港の直近病院としての役割
- 災害時医療の整備
- 研修及び教育機能の充実

<具体的な内容>

- 生活習慣病の診療
- がん診療の充実
- 救急医療の充実
- 高齢者医療の充実
- 地域における一般診療
- 空港関連の医療
- 災害医療の整備
- 教育・研修機能の整備

5 他の医療機関との再編等

再編等については、当面の課題である救急医療確保等の観点から、議論することが重要であり、現時点で、再編等を前提とした新病院計画は困難である。ただし、新病院の基本的な考え方、機能、役割を確保することを基本に中長期的視野に立って、再編等を広域で検討するものとする。

6 新病院の病床数

新病院は、将来の人口趨勢、経営見通しを踏まえた上で、一般病床 250 床を基本とする。ただし、新病院の建設費負担について、市の一般会計から多額の繰入金が必要となることも想定されることから、今後の建設計画において建設費の縮減を検討するとともに、経営改善を図ることとする。

7 新病院の診療科

新病院は、急性期医療、救急医療を実践するなど、上記 4 の機能、医療サービスを確保するとともに、総合病院としての医療体制を確保することから、現在の標榜診療科を維持することを基本とする。